

《日米親善「第九」ニューヨーク・カーネギーホール公演》

日時: 2013年12月26日(木) 20時開演

会場: カーネギーホール(ニューヨーク)

曲目: ベートーヴェン: 交響曲第9番ニ短調作品 125

指揮: 平井 秀明

独唱: 佐竹由美(Sop.)、フランチェスカ・ルンギ(Alto)、ポール・ウィリアムソン(Ten.)、三浦克次(B-Bar.)

管弦楽: ニューヨーク祝祭管弦楽団 合唱: ベートーヴェン記念特別合唱団 合唱指揮: 辻 秀幸

主催: 一般社団法人 国際親善音楽交流協会 協力: カーネギーホール

『ニューヨーク・コンサート・レビュー』(2014年1月3日) ~ジェフリー・ウィリアムス氏評:

“ニューヨーク祝祭管弦楽団はアメリカ全土の精鋭演奏家を当公演のために選抜して結成された。全体的な演奏は洗練され、アンサンブルは目を見張るほどに統率されており、あたかも長年に渡り共に活動をしているかのように感じられた。作品冒頭のトレモロから、スケルツォで炸裂するティンパニー、3楽章の崇高なアダージオ、そして大作の最終楽章まで、極めて満足のいく演奏であった。

マエストロ平井は特に見事だった。暗譜で指揮をしながら、不断のエネルギーと強靱な集中力とともに、楽譜への深い知識を示した。彼はダイナミックで、自信に満ち、75分間完全に従事していた。特に興味深いことには、彼自身合唱とともに歌い、その表情に明らかな喜びが見て取れたことである。私がこれまでにこの作品を生演奏で聴いた最高の一つであり、聴衆から与えられたスタンディング・オベーションに正に値する演奏であった。演奏者全員へブラボー！”



Photo: Stanly Abraham

『ニューヨーク・カルチャー・エグザミナー』（2014年1月8日） ～ミラ・ホーヴァー氏評：

“表現力豊かで活気のあるオーケストラの存在、特にその指揮者のマエストロ平井とともに、コンサートは急速に高いエネルギーレベルに達し、維持されていた。

終演後、聴衆の反響は非常に長く、感極まるもので、その多くは、ベートーヴェンの交響曲第9番への見事で、深遠な知識と解釈とともに、暗譜で指揮をしたマエストロ平井へ向けられたものであった。マエストロ平井は、ニューヨーク祝祭管弦楽団との傑出した仕事を認められた約3,000名の聴衆を前に、目覚ましいカーネギーホール・デビューを飾った。”



Photo: Stanly Abraham

『ロベルタ芸術評（ニューヨーク）』（2014年1月10日）～ロベルタ・ズウォコヴァー氏評

演奏者と合唱はこの特別イベントのためだけに結集したが、マエストロ平井との視覚的なコミュニケーションや、このオーケストラの揺るぎない統制ぶりは、信じられないほど素晴らしいものだった。

4楽章で合唱と声楽ソリストらが有名なメロディーとともに現れ、フリードリッヒ・シラーの“歓喜の歌”がドイツ語で歌われ明快に響き、記念碑的な効果を与えた。佐竹由美（ソプラノ）、フランチェスカ・ルンギ（アルト）、ポール・ウィリアムソン（テノール）、三浦克次（バス・バリトン）は皆、華やかな音色と温かい響きで歌った。聴衆は一晩中熱狂ぶりを示し、ベートーヴェンの「第九」が嵐のような終演に至ると、カーネギーホールも同様に嵐の様な賞賛に沸いた。



平井秀明(ホール正面のポスター前にて)



満席のカーネギーホール